

平成29年3月期 第3四半期 決算説明会

平成29年2月7日



株式会社 **DTS**

<http://www.dts.co.jp/>

- 平成28年4月の「データリンクス株式会社」による人材派遣事業の一部譲渡により、特別利益(第1四半期)を約1.6億円計上。また、当該事業の売上高(通期)が対前期で約21億円減少する見込み。
- 平成28年3月期における「株式会社総合システムサービス」の決算期変更(12月決算→3月決算)に伴い、平成27年1月から3月までの3ヵ月分を前期に連結したことから、売上高(第1四半期)が対前期で約5億円減少。
- 平成28年3月期の本社などの土地および建物の売却に伴い、特別利益11億円および特別損失5億円(第1四半期)が対前期で減少。
- 平成28年12月、「株式会社九州DTS」、「株式会社DTS WEST」の情報サービス産業厚生年金基金からの脱退に伴い、特別掛金約1.7億円を特別損失に計上。

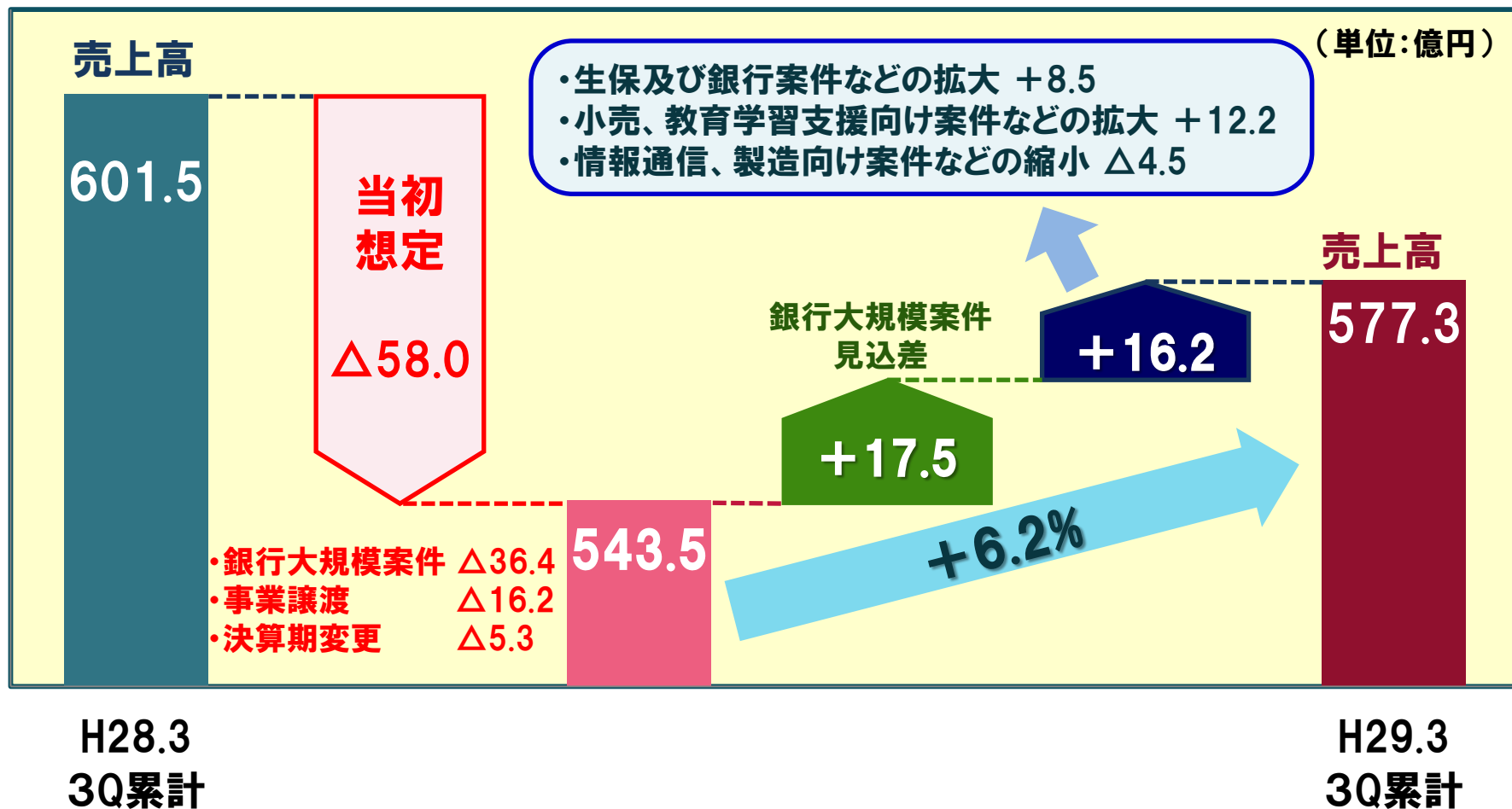
第3四半期 連結業績

売上高は、生保案件やソリューションビジネスなどが好調に推移したが、銀行大規模統合案件のピークアウト、人材派遣事業の譲渡影響、株式会社総合システムサービスの決算期変更などの影響により、前年同期比△24.1億円の減収。
営業利益率は、前年同期比+0.4pt向上し、営業利益は過去最高を更新。

(単位：億円、%)	実績	売上比(前年同期比)	前年同期比		業績予想に対する進捗率
			金額	%	
売上高	577.3	—	△24.1	96.0%	74.0%
売上総利益	114.0	19.8% (+1.5pt)	+3.9	103.5%	75.5%
販管費	58.4	10.1% (+1.0pt)	+3.8	107.0%	72.1%
営業利益	55.6	9.6% (+0.4pt)	+0.1	100.2%	79.5%
経常利益	57.0	9.9% (+0.5pt)	+0.6	101.1%	80.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36.7	6.4% (△0.1pt)	△2.5	93.6%	81.6%

第3四半期 連結売上高 増減要因

- ・大規模統合案件のピークアウトなどにより、売上高の減少は約58億円を想定。
- ・減少分を除くと、大規模統合案件の見込差、生保や銀行、小売業向け案件などの拡大により、実質成長率は+6.2%。



第3四半期 セグメント別 売上高

- ・金融公共セグメントは、銀行の大規模統合案件の影響により減収。
- ・法人通信・ソリューションセグメントは、車載関連などの案件伸長により増収。
- ・運用BPOセグメントは、新規案件の獲得や既存案件の伸長により増収。
- ・地域・海外等セグメントは、事業譲渡及び決算期変更の影響により減収。

(単位：億円、%)	実績※1	構成比	前年同期比※2		業績予想に対する進捗率
売上高	577.3	—	△24.1	96.0%	74.0%
金融公共	216.6	37.5%	△5.0 ※3 (+12.2)	97.7% (106.0%)	81.7%
法人通信 ソリューション	139.9	24.2%	+1.2	100.9%	67.6%
運用BPO	90.3	15.7%	+1.0	101.1%	74.7%
地域・海外等	130.4	22.6%	△21.4 ※3 (+1.7)	85.9% (101.4%)	69.8%

※1 実績はグループ外への売上高

※2 前年同期比は概算値

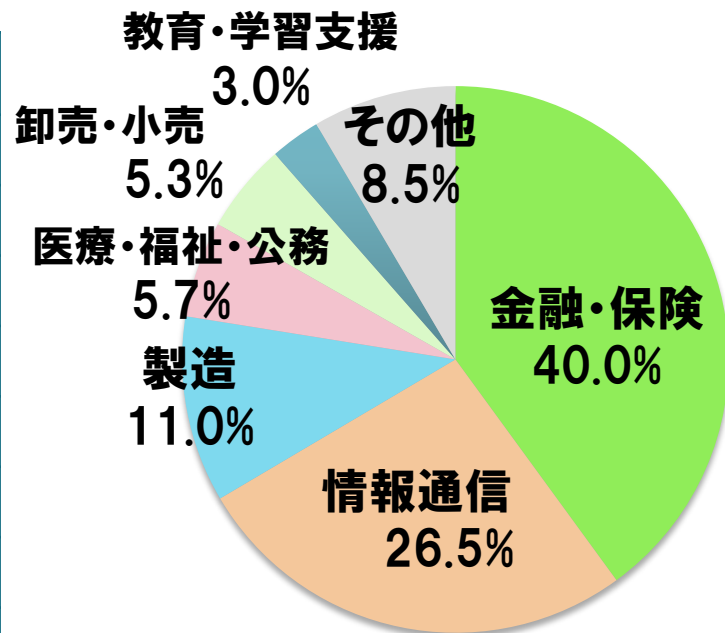
※3 ()は銀行大規模統合案件のピークアウト、事業譲渡、決算期変更影響を除いた数値

第3四半期 エンドユーザ別 連結売上高

- ・情報通信は、事業譲渡の影響、通信事業者向けの案件や物販の縮小などにより、前年同期比で減収。
- ・教育・学習支援は、大学向け機器販売が伸長し、前年同期比で増収。
- ・卸売・小売は、ERP案件などの拡大により、前年同期比で増収。

経済産業省による業種分類

(単位:億円、%)	金額	構成比	前年同期比	
金融・保険	230.7	40.0%	95.7%	△10.3
情報通信	153.2	26.5%	91.4%	△14.3
製造	63.6	11.0%	93.9%	△4.1
医療・福祉・公務	32.9	5.7%	101.4%	+0.4
卸売・小売	30.5	5.3%	120.9%	+5.2
教育・学習支援	17.1	3.0%	156.0%	+6.1
その他	49.0	8.5%	87.2%	△7.2
合計	577.3	100.0%	96.0%	△24.1

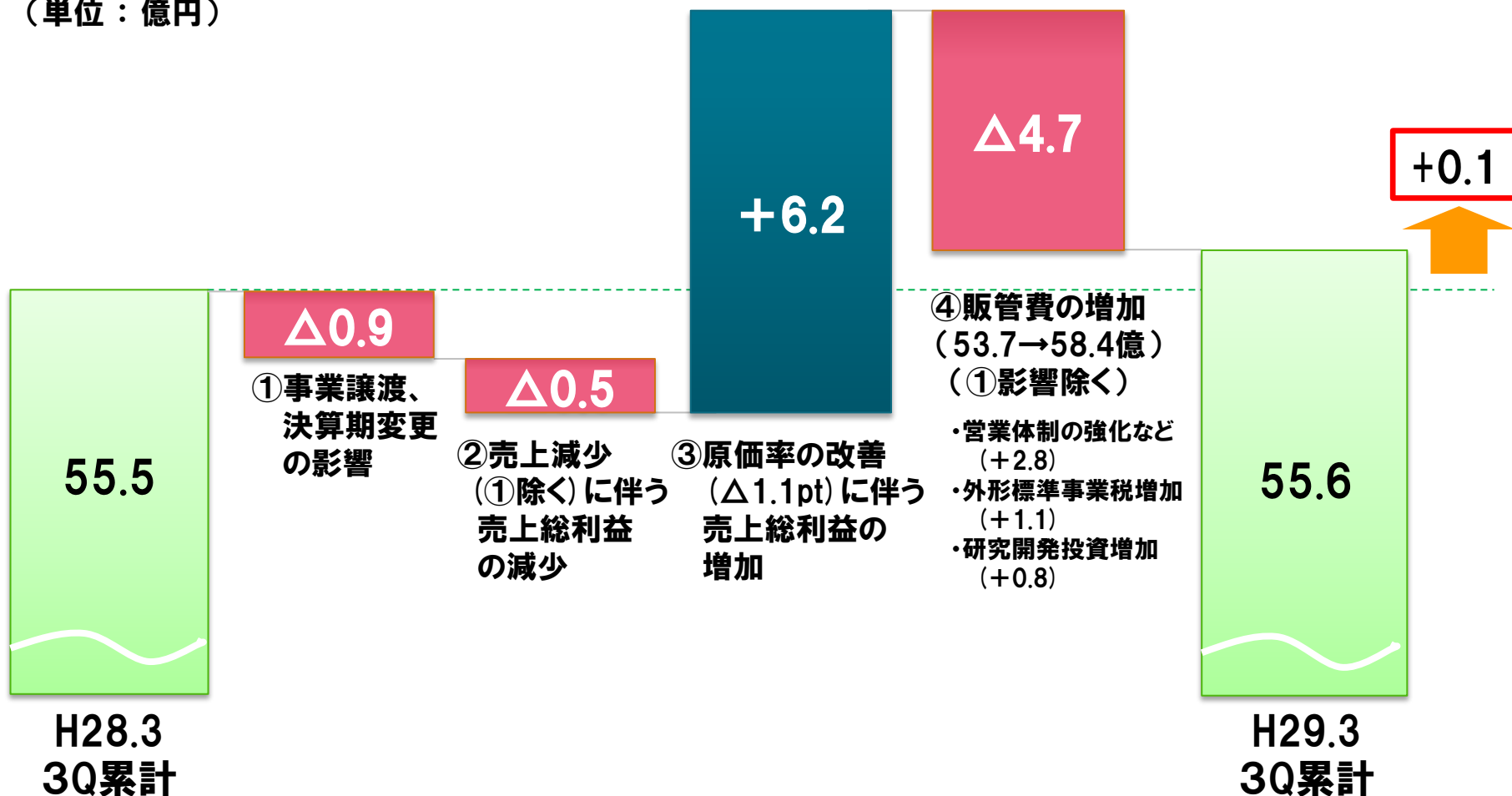


金融・保険は、大規模統合案件や事業譲渡影響などを除くと、生命保険、信託銀行、証券会社向け案件などが拡大し、前年同期比で増加。(+8.5)

第3四半期 連結営業利益 増減要因

- ・売上総利益は、事業譲渡や決算期変更の影響、売上高の減少などの減少要因があるが、原価率の改善などにより増益。
- ・販管費は、営業体制の強化などで増加したが、営業利益は増益。

(単位：億円)



第3四半期 セグメント別受注

【受注残高の状況】

- ・金融公共セグメントは、銀行大規模統合案件の影響を除くと増加。
- ・法人通信・ソリューションセグメントは、既存案件終了による減少影響があるが、車載関連の組込案件やPKGソリューション案件などの拡大により増加。
- ・運用BPOセグメントは、運用設計・構築など上流工程案件の拡大により増加。
- ・地域・海外等セグメントは、事業譲渡などの影響を除くと増加。

単位(億円、%)	受注高				受注残高			
	実績※1	構成比	前年同期比※2		実績※1	構成比	前年同期比※2	
連結	436.7	—	△26.2	94.3%	163.2	—	△1.0	99.4%
金融公共	151.5	34.7%	△17.7	89.5%	61.2	37.5% ※3	△5.2 (+4.5)	92.1% (109.9%)
法人通信 ソリューション	130.9	30.0%	+2.3	101.9%	44.0	27.0%	+2.5	106.0%
運用BPO	26.7	6.1%	+1.9	107.9%	29.0	17.8%	+4.9	120.8%
地域・海外等	127.5	29.2%	△12.8	90.9%	28.9	17.7% ※3	△3.2 (+2.5)	89.9% (110.8%)

※1 実績はグループ外への受注

※2 前年同期比は概算値

※3 ()は銀行大規模統合案件のピークアウト、事業譲渡、決算期変更影響を除いた数値

第3四半期 個別業績

売上高は、生保、信託、地方自治体、ERP案件などで増収となったが、大規模統合案件の減少影響により、前年同期比△2.9億円の減少。

営業利益は、営業体制の強化や税制改正の影響などにより販管費が増加したが、プロジェクト管理強化などによる原価率の改善により、前年同期比で+3.1億円増加し、過去最高益を更新。営業利益率も+0.9pt向上。

(単位：億円、%)	実績	売上比(前年同期比)	前年同期比		業績予想に対する進捗率
売上高	409.2	—	△2.9	99.3%	75.8%
売上総利益	81.5	19.9% (+1.4pt)	+5.3	107.0%	77.3%
販管費	31.2	7.6% (+0.5pt)	+2.1	107.5%	66.5%
営業利益	50.2	12.3% (+0.9pt)	+3.1	106.6%	85.9%
経常利益	52.6	12.9% (+1.2pt)	+4.2	108.9%	88.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36.9	9.0% (+0.2pt)	+0.5	101.5%	92.5%

(参考1)第3四半期 旧セグメント 売上状況

- ・システムは、生保、信託、地方自治体などの金融・公共案件が堅調に推移。
- ・オペレーションは、運用設計・構築などの上流工程案件が堅調に推移。
- ・プロダクトは、教育機関向けは拡大したが、通信業向けが低調により減少。

(単位:億円、%)	実績	構成比	前年同期比		主な増減要因
売上高	577.3	-	△24.1	96.0%	
情報サービス	568.5	98.5%	△8.4	98.5%	
システム	421.1	72.9%	△12.5 (+11.2) ※1	97.1% (102.7%)	・大規模統合案件などの減少影響を除き、生保、信託、地方自治体やERP、車載案件が堅調に推移
オペレーション	105.3	18.2%	+5.6	105.7%	・運用設計・構築などの上流工程案件が堅調に推移
プロダクト その他	42.0	7.3%	△1.4	96.6%	・教育機関向け機器販売が好調 ・通信業向け機器販売は低調
人材サービス	8.8	1.5%	△15.7	35.9%	・事業譲渡により減少

※1 ()は銀行大規模統合案件のピークアウト、決算期変更影響を除いた数値

(参考2)第3四半期 旧セグメント 受注状況

受注残高では、BPO及び運用設計案件などが堅調に推移したが、事業譲渡や決算期変更などによる減少分を補えず、対前年同期比で微減。

(単位:億円、%)	受注高				受注残高				主な増減要因 (受注残高)
	実績	構成比	前年同期比		実績	構成比	前年同期比		
受注高・受注残高	436.7	-	△26.2	94.3%	163.2	-	△1.0	99.4%	
情報サービス	432.7	99.1%	△13.5	97.0%	161.0	98.6%	+4.7	103.1%	
システム	349.6	80.1%	△18.2	95.0%	127.7	78.2%	+0.6 (+10.5) ※1	100.5% (109.0%)	・大規模統合案件などの減少影響を除き、生保、地方自治体、信託などが堅調に推移
オペレーション	40.6	9.3%	+8.1	124.9%	31.7	19.4%	+6.0	123.7%	・BPO及び運用設計案件などが堅調に推移
プロダクト その他	42.4	9.7%	△3.3	92.6%	1.5	1.0%	△1.9	44.2%	・通信業向け機器販売低調などにより減少
人材サービス	3.9	0.9%	△12.6	23.9%	2.2	1.4%	△5.8	28.1%	・事業譲渡により減少

※1 ()は銀行大規模統合案件のピークアウト、決算期変更影響を除いた数値

(参考3)第3四半期 主なプレスリリース



リリース日	会社名	タイトル・概要
11月28日	デジタルテクノロジー	<p>「HCIなどITインフラ基盤の統合バックアップを実現するデータ管理アプライアンスの提供開始」</p> <p>*データの保護とリカバリがシンプルに行える統合データ管理アプライアンス DR-ENTERPRISE シリーズ VH(以下DR-E VH)の提供を開始</p>
11月28日	デジタルテクノロジー	<p>「ランサムウェアなどの脅威からクライアントPCを保護するセキュリティ対策アプライアンスの提供開始」</p> <p>*クライアントPCのデータ保護を実現するCommvaultソフトウェアとセキュリティ対策ソフトウェアであるカスペルスキーがバンドルされた、セキュリティ対策アプライアンスDR-ENTERPRISEシリーズ RE(以下DR-E RE)の提供を開始</p>
12月5日	DTS WEST	<p>「MCPC award 2016 ユーザー部門」にて「特別賞」を受賞しました」</p> <p>*DTS WESTが開発した「小児救急支援アプリ」がモバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC)の「MCPC award 2016」ユーザー部門にて「特別賞」を受賞</p>
2月 7日	DTS	<p>連結子会社(横河デジタルコンピュータ株式会社)との会社分割(簡易吸収分割)に係る契約締結に関するお知らせ</p> <p>*平成29年4月1日に(株)DTSの組込み関連事業を、当社の100%子会社である横河デジタルコンピュータ(株)に会社分割により承継</p>

平成29年3月期 第3四半期 決算説明会

ご清聴ありがとうございました

本資料についてのご注意

本資料に記載されている将来の売上高および利益などの予想数値は、業界の動向を含む経済情勢、お客様の動向など、現時点で入手可能な情報をもとにした見通しを前提としておりますが、これらは、種々の不確実な要因の影響を受けます。したがって、実際の売上高および利益などは、本資料に記載されている予想数値とは異なる場合がありますことをご承知おきください。